

活動報告レポート	アスクル 産業復興支援
報告日	2014年1月27日
報告者	公益社団法人 シビックフォース

気仙沼の産業復興支援

宮城県気仙沼市では、全国有数の水揚げを誇る気仙沼港を中心として特に水産業が重要な役割を果たしています。マグロやカツオ、サンマ等の漁業に加え、カキやホタテ、ホヤ等の養殖業、またこれらに関連した水産加工業も盛んです。東日本大震災によって気仙沼港や漁船、養殖施設、関連する水産加工場等が壊滅的な被害を受け漁獲高や生産量は大幅に落ち込みましたが、震災の年も含め昨年まで17年連続で生鮮カツオの水揚げ日本一を誇り、水産加工場が復旧する来年以降は更に取扱量が増えることが見込まれているなど、ようやく明るい兆しも見えてきています。

一方で、今も続く人口流出や高齢化の問題は、同市の持続的な復興を考える上で非常に切実な問題です。震災直前の平成23年2月末時点で、74,247人であった人口は、平成25年12月末時点で68,465人にまで減少しています。シビックフォースは、こうした労働人口の減少の問題を震災の被害を受けた地域だけでなく、将来の日本が直面する大きな課題であると考えています。今後は、これまでに実施してきた被災地域における水産業の復活のための支援、中長期的な地域の復興・発展に資する新産業の可能性を秘めた再生可能エネルギー源としての林業への支援を更に自律的に発展させるため、一次産業と観光との融合も試みていくことで、東北の復興が日本の抱える社会的課題解決に寄与するモデルとなりうるよう活動を続けて参ります。

■ 観光再生の新たな仕組みづくり

気仙沼市では、震災後の観光産業の落ち込みを食い止めるため、地域内の観光業関係者や外部のアドバイザーなど総勢24名の委員からなる「気仙沼市観光戦略会議」を立ち上げ、2012年3月から毎月1回、食や地域文化などを活用した観光メニュー、震災の経験や教訓、復興への過程を新たな資源とするツアーの実施など、観光を基幹産業として再生させるための様々な施策を話し合ってきました。1年にわたる会議や部会の成果は、2013年3月末、「水産と観光の融合」をメインテーマに掲げる「観光に関する戦略的方策」として、まとめられました。そして、同年7月、ついに一般社団法人として、「リアス観光創造プラットフォーム」が設立され、この気仙沼市の「観光に関する戦略的方策」の中核的推進機関としての活動を開始しました。

シビックフォースも、この「観光戦略会議」の立ち上げから「観光創造プラットフォーム

ーム」の設立まで、1年以上に渡り、官民の垣根を超えて地域の人々と協働してきました。行政や民間業者などとの綿密な意見交換を繰り返しながら、外部者の視点で観光誘客の環境づくりに向けた部会やワークショップへの参画を続け、内外の専門家や企業と協力して、観光戦略立案のための先進事例の調査・分析や重点戦略の提案を行うなど、現在も気仙沼市の観光再生に向けた努力を続けています。

今後も、この「リアス観光創造プラットフォーム」へのサポートを通じて、観光情報の集約やモニターツアーの企画・実施など、域内外のヒト・カネ・ノウハウが効率的に循環することで長期的な産業復興につながるような仕組みづくりのための試行錯誤を続けていきます。



気仙沼市とリアス観光創造プラットフォーム共催のワークショップの様様



リアス観光創造プラットフォーム発行・「気仙沼漁師カレンダー2014」

■ 豊かな自然と震災の経験を新たな観光メニューに

シビックフォースが、観光再生のための「水産と観光の融合」を目指す上で、特に重視しているのが、唐桑町舞根地区発祥の「森は海の恋人」の理念です。これまでも、舞根地区では、牡蠣の養殖イカダや水産加工施設の復旧のために使用したユニック車や軽車両の支援、水質調査などを実施してきました。また、復旧から復興を見据えるフェーズでは、従来は価値が低かった規格外の牡蠣やホタテなどに付加価値を付けて販売す

るための新商品開発や工場の整備など生産体制の整備も行ってきましたが、さらなる自律を目指す現在、こうした豊かな自然と震災の経験を新たな観光メニューとして確立し、その担い手を地元で育成しようという機運も高まっています。

そこで、シビックフォースは、特定非営利活動法人・森は海の恋人による「自然の繋がりを体験し、また震災の経験を伝えるためのプログラム」の開発をサポートしてきました。森・里・海のつながりが体験できる自然環境体験ツアー（例：観光客がまず西舞根川上流域まで歩いて植樹を行うとともに、流域の自然環境や河の様子を観察し、下流域では海の生物観察や養殖体験、ツリークライミングやシーカヤックを楽しむなど「森は海の恋人」の理念を体感するツアー等）の実施に留まらず、地域に根差し、その長所や課題を理解・発信し、外部から客を呼び込めるような人材を育成していくことで、人と自然が共生する自然環境を軸とした被災地における新しいまちづくりのモデルをつくることを目指しています。

同様の担い手育成は、「リアス観光創造プラットフォーム」内に設置された「観光コミュニケーション部会」でも、「市民の観光意識の醸成」と「誰もが観光で主役になれる街づくり」を目指して行われています。特に、水産と並び期待が高いのは、木質バイオマスイエネルギーによって脚光を浴びつつあり、またアスクルの産業復興支援でもサポートを続けてきた林業の観光分野での創造的な活用です。気仙沼市では、チェーンソーや軽架線の使い方、作業道の作り方などの講習を通じた個人林業家の育成も行われており、彼らの手によって、2012年12月からこれまでに当初の想定を大きく上回る1,500トン超もの木材が集積されるなど、森林資源の持つ価値が見直されつつあります。そこで、今後は山林を活用した体験型ツアーの開発も進めながら、森と海を観光を通じて繋ぐことも目指していきます。



森は海の恋人・自然環境体験モニターツアーの様子



森は海の恋人・高校生向けの環境教育プログラム実施風景

支援金額 1,691,474 円 (2013 年 8 月 21 日～11 月 15 日分)

宮城県気仙沼市における産業復興のために役立てられました。

支援金使途

●観光再生（一次産業と観光の融合を通じた気仙沼市観光戦略の推進と実現）

- ・ 市内観光事業者へのヒアリング実施費用
- ・ ワークショップや会議の企画・開催・運営費用
- ・ 先進事例調査分析のための専門家招聘費用
- ・ 観光復興情報誌の取材・編集・発行費用（3 月末刊行予定）
- ・ 自然環境体験ツアー実施と担い手育成講座実施費用、等